

ロンドンオリンピックにおける施設の研究

Research of the institution in the London Olympic Games

株式会社シミズオクトイベント営業部
Shimizu Octo, Inc. Event sales department

山 倉 塁
Rui Yamaku

.はじめに

9月にロンドンとパリ&ペディフォーを視察した。
ヨーロッパにおけるスポーツ施設、エンターテ
イメント施設についての視察研究。

ロンドンオリンピックが開催されたイギリスお
よびフランスのスポーツ施設や設計・デザイン会
社、エンターテインメント施設やその演出について
の見解を述べる。

.スポーツ施設概観

1 . Wembley Stadium



Wembley Stadium は、9 万人収容のイングランド
すぐとなりにはフットサルコートがある

最大のスタジアム。使用制限があり、年間でサッ
カーやコンサートなどのイベントを最高で 38 回
しか使えない。サッカーは特別な試合でのみの使
用であり、今年のオリンピックではメダルの懸か
った試合でのみ使用された。設備はVIP ルームや
レストランなどがあり、非常に充実している。地
下のグランドレベルはピッチの周りの客席下を
360° 車両が通れる車道が配備されていて、搬入



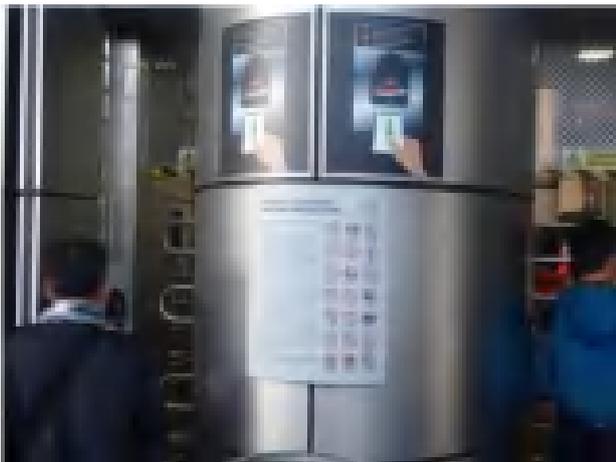
VIP 用のテーブルがずらりと並び広間



搬入や関係者導線などにアクセスがしやすいように工夫がなされている。

客席全体の 2.5%が車椅子用の座席になっていてバリアフリーの面も考えられた設計である。

試合当日は駅からのアクセスが非常にスムーズであった。会場への入口は全て自動改札であり係員の人数は必要最低限に抑えられていた。



入場は自動改札にチケットを差し込む



ポディーチェックでペットボトル、瓶、缶は中身を紙コップに移し替え

ペットボトルや瓶、缶の持ち込みは制限されて

いた。10年ほど前まではイングランドではフーリガンがスタジアムで暴力や破壊行為などをしてきたが、最近では全くなくなった。客席内に一切アルコールを持ち込めなくなったことと試合中は立って観戦してはいけないというルールが観客に定着したことが要因である。

国際試合などの大きな試合でも警察はスタジアム内には常駐はせず、自主警備のみで運営をおこなっていた。帰りの導線は駅への入場規制を警察が実施していたので非常に混雑していたが大きな混乱はなかった。

スタジアム内の全ての売店が閉店して全ての観客が駅に向かっていただけが地下鉄の本数を増やしていたため、案外スムーズに帰路につけた。

2007年に全面改修を行って以来近代的な施設に生まれ変わった Wembley Stadium はまさに最新の設備が整ったイングランド最高のスタジアムであった。



コンコース内にインフォメーション設備

2 . Olympic Park

今回のオリンピックのためにロンドンの郊外に作られた。もともとはあまり裕福でない人たちが住むエリアを再開発した場所。

メインスタジアムを中心に競技場の他、大きなショッピングモールが隣接している。駅から出るとまずショッピングエリアがありスタジアムに行くまでには賑わった道が続いている。

導線は一方通行で通路は広くなっていて、看板などの表示も豊富でスムーズなアクセスが可能となっていた。ボランティアスタッフは案内をやり

つつもお客さんを楽しませることも忘れていなかった。



駅前からオリンピック色
パークへの道は一方通行に規制されていた



パラリンピック閉会式はオリンピックスタジアムが満員であった。入場者の管理は全てハンディの端末でバーコードを読み取るシステムを採用していて非常に効率的な入場ができていた。



金属探知機での厳重なチェック

入場口では金属探知機によるボディチェックも実施されていて厳重な体制であることが伺えた。ゲートまでの道のりは通路も広くて、わかりやすい設計となっていた。ゲート付近にはトイレ、車いす用のエレベーターもあり設備は充実している。客席には全席小型 LED ライトが設置されていて、



客席に設置された LED で光と映像の演出

客席スタンドを光と映像で演出できるようになっていた。

閉会式らしい派手な演出があり演出者、パラリンピックの選手、観客が一体となった式に仕上がっていた。

3 . Wimbledon



正式名称は OLD ENGLAND TENNIS CLUB。WIMBLEDON CHAMPIONSHIPS でお馴染みだが、大会は1年で1回のみで開催である。普段はテニスクラブの拠点として使われている。2012年はオリンピック開催の為、例外でテニスの会場として使用された。1868年にクロケットのコートとして発祥したと言われていてテニスクラブの設立は1922年である。クラブのメンバーは常時75名のみでありメンバーになるのに最も必要なものはテニスへの愛情とのこと。いくらお金を積んでもメンバーには入れなく、白のウェアの着用しか認めてないなど格式の高いクラブであることが伺える。

54面あるテニスコートのうち19面は芝のコー



オリンピックで使用されたコート
最大のセンターコートは1万5千人収容

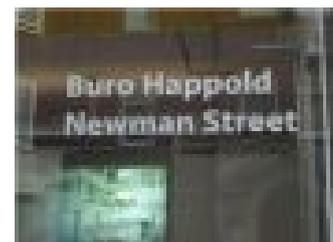


トで14人の管理人が1年を通して芝の育成をしている。

CHAMPIONSHIPS では全650試合が行われ、毎日約5万人の観客が来場する。最大のコートはセンターコートであり1万5千人収容。グラウンドチケットと言われるコートに入れる券はプレミアチケットで普通のチケットでは敷地内にしか入れないので、テレビ中継でよくモニター観戦してる観客が写る。

4 . スポーツ施設の設計・デザイン

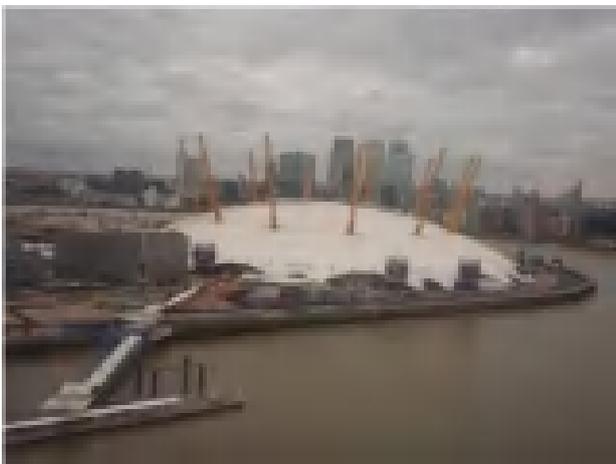
Buro Happold 社
ロンドンオリンピックのメイン会場 2012 Olympic Stadium などの大型スポーツ施設



や、O2 Arena などのイベントスペース、その他ホテルなどを設計、デザインを手掛けた Buro Happold 社。



オフィスにはデザイン画が飾られている
O2arena は奇抜なデザインで目を引く



ドイツのハノーファー-EXPO では日本パピリオンを担当している。ロンドンを拠点に世界各国に支店があり、ヨーロッパ、アメリカ、UAE、インド、中国、などに広がるエンジニアリング会社。

ロンドンオリンピックではユニバーサルデザインをキーワードに2004年から準備を始めており、計画段階から、ハンディキャップを持つ人にも快適に過ごせるような施設を作ることに力を入れていた。

大勢の来場者が来ることを見越してアクセスの良さを考えている点や、オリンピックが終わってからも使える施設にすることが考えられているという点がとても印象的であった。

・ エンタテインメント施設概観

1 . Plasa2012 展示会

照明や、音響機材の展示会。EARLS COURT という大きな会場で行われていた。

入場は用紙に記載された番号をテンキ に打ち

込むとパスが出てくるシステムになっていて。

ロンドンでは機械での入場者管理が当たり前になっていた。

場内はとろせましと最新機材の数々が並んでおり会場内には人がかなり入っていて、ブースの他にもレストランやカフェもありにぎやかな雰囲気であった。



LED などの照明のブースは人気があった

日本でもおなじみの会社もブース展開

